

里山の冬



カニ山（深大寺自然広場）を南側の田んぼから眺める

12月は造園業者にとっては植木の手入れを頼まれることも多く、忙しい時期だが、そんな合間を縫って門松の制作もかせない。佐須の竹内園さんでも今回は11対の門松を仕上げた。



竹より短いたくさんの松を裾に入れるのは関東で一般的な形。竹の先はそぎ切りとまっすぐに切るやり方があるが、そぎ切りは家康が信玄に對して「次は切る」との意味をこめ始めたとも言われている。こちらの門松はおもにお寺（深大寺・祇園寺）などに収めるそうだが小さい物は民家にも。

一対一日がかりで作った物は納品場所でもまた形を整え注連飾りを付ける。



縄の結び方は梅の花と男結びを使用。巻く回数も下から七五三と縁起の良い数で縄を巻く。

自宅に持ち帰ってから縁起の良いゆずり葉を飾り、こんなお洒落な注連飾りにした方も。



12月18日 環境市民会議では佐須の田んぼでできた稲ワラを使い、注連飾りを作る講習会を開催。集まった15人の生徒は田んぼの学校校長の尾辻さんから注連縄のつくり方を教えていただいた。霧吹きでワラを湿らせてから木槌でたたいて柔らかくする。一人で縄をなうときは足で抑えるが、二人一組で作ると楽にできる。



注連縄は神様と現世を隔てる結界となるが、正月には年神様をお迎えする場所の目印ともなる縁起の良い飾り。和紙などで作った紙垂（しで）や橙、裏白（シダの一種）、ゆずり葉、昆布などを飾るのが一般的。

1月14日 今年も青年会の主催で佐須地区でのどんど焼きが行われた。筆者もカニ山の保全作業に出かける朝、自分で作った注連飾りをお願いした。盛大に燃やしたあとは集まった方々の一年の無病息災がかなうという、その火で焼いたお餅を食べたとのこと。



同じく18日。田んぼの学校の生徒さんは田んぼ用の落葉集め。一時は放射能の影響で中止されていたが昨年から再開。カニ山で集めた落ち葉は田んぼ近くに山積みになれ大事な堆肥になる。



花の履歴書④

戸部英貞 (絵・文)

フキ (路の臺) キク科



Petasites japonicas

冬至が過ぎ、新年を迎える頃になると、陽射しも明るく感じられるのは、新しい年を迎える新鮮な気持ちなのか、心の中まで暖かくなり外へ飛び出したい衝動が体の中を走り始める。こんな時、決まって探しに出かけるのが路の臺だ。

以前に採った場所や野山を散策した折に綿毛を飛ばしていた情景が頭の中に次々と浮かんでくる。目指す場所に出かけ、霜枯れした葉の陰にふっくらした蕾を見つけると、春を独り占めにしたような気分になって、体中が躍動しているのを感じる。こんな時の初物は沢山はいらない。先取りした春の香りを一刻も早く体の隅々まで伝えるには特別な調理はせず、細かく刻んで味噌汁に浮かせばそれで十分だ。

以前思いがけなく路の臺を手に入れた心地よさと真っ白に輝く富士山に惹かれて、御坂峠に出かけたことがあるが、まだ途中の河口湖は結氷し、ワカサギ釣りを楽しむ人たちが

糸を垂れていた。山道の路肩には残雪が残り、山の春はまだ遠いことを知らされる。

峠まで上り太宰治の月見草の碑を見に車を降りると、体が凍えるような寒さで、慌てて天下茶屋に飛び込み、茶を貰い味噌田楽を食べながら太宰治もここで富士を眺めていたのだと、ぼんやり外の景色を眺めながらポケットに入れた手に路の臺が触れた。

そっと取り出し、田菜の上に散らすとたちまち口の中に春の香りが拡がり、体中に幸せな気分が伝わった。以来、雪の富士山と路の臺が結び付いている。

今年もそんな季節がやってきた。多摩川に出かけ、しばらく冬の渡り鳥の群れを眺めていると、西の彼方に青空を背景に真っ白に雪をかぶった富士山が目に残り、そのまま路の臺を探しに行きつけの場所に向かった。



えねこや訪問記

電気の地産地消

「オフグリッドハウス」をご存知ですか？グリッド (grid) は「送電網」、オフグリッドハウスは「送電線が電力会社とつながっていない家」という意味になります。電力の売買はせず、自前で発電をしてそれを使う、電力自立の家です。多くは太陽光で発電し、蓄電池に貯めて使います。

深大寺北町にある「えねこや」は、一級建築士湯浅剛さんが自宅の隣家を買収して、オフグリッドハウスとして改装した家です。原発事故後、仲間と一緒に原発に頼らない社会に活動してきた湯浅さんの思いの結晶でもあります。

「オフグリッド」とは、送電網からの大量の電気を存分に使うのではなく、自分で発電した電気を大事に使うという生き方を選ぶことでもあるからです。

その「えねこや」を12月に8人で訪問し、6月からのデータを解説していただきました。多くのオフグリッドハウス同様、断熱気密性能を高め、太陽光や通風などを活用する「パッシブ

ソーラー」という考えで、環境に配慮して気持ちよく暮らせるようにつくられています。この日も、3層のガラス戸が嵌められた部屋の中は日差しの温かさを閉じ込めて快適でした。6月からの4か月間で、一番電気を消費したのは冷蔵庫 (32%)、エアコン (20%) でしたが、その次は通信機器、コピー機 (18%) だったとか。夏には蓄電池からあふれるほどの電気を発電し、使い道に困るほどだそうです。

シンプルな外観、木を活かした内装、窓の外には夏にグリーンカーテンができるような柵もあり深大寺という町の自然環境にふさわしい素敵な建物でした。

(八木昭子)



写真提供 湯浅剛氏

調布あちこち

カニ山の風景を考える



キャンプ場北奥の常緑樹林は民有地になっている

佐須の里山風景に欠けないカニ山。20年ほど前、雑木林塾 (現雑木林ボランティア講座) の卒業生がカニ山の保全作業を考えていた頃は、広場手前の切通しはもう少し深く、カニ山全体が幾分うっそうとしていた。全体にさっぱりしてきたのは高木による日当たりの悪さで枯れたり、利用者が増えて土が固くなったことにも原因があるのだろう。

カニ山東端、柵右側は民有地 (さらにその先の東側は晃華学園の樹林につながる)



そして隣接する民有地もカニ山の風景の大事な一部分。これらが全て残されることは難しいだろうが、このすばらしい景観が少しでも保たれたいように！ (NK)

ちょうふの崖線樹林を守る

入間・樹林の会

11月20日(日) 曇り一時雨 参加者9名

林内巡回の後、伐採杉の確認を行った。3手に分かれマテバシイ広場の下草刈り、坂道横の整備、通路脇の幹回り13cmの枯れた杉の伐採ができた。雑木林ボランティア講座から伐採技術のある助っ人参加により作業がはかどり、時々手伝いに来てほしいとのメンバーの声。ヤブマメ、ツブキ、サザンカ、ツバキが咲き、実はサネカズラ、ヤブコウジが初お目見えの他、たくさん。虫はクサギカメムシ、ジョロウグモ、鳥はルリビタキ、ヒヨドリ、メジロ、ハシブトガラス。



サネカズラの実

12月18日(日) 晴れ 参加者9名

各人で落ち葉ため付近の下草刈り、崩れてきた斜面の粗朶柵づくり、サネカズラ伐採、落ち葉かきなど作業をした。落ち葉ため付近の斜面の粗朶柵づくりは土留めの効果を期待したい。サネカズラは林内全体に繁茂してきている。

1月15日(日) 晴れ 参加者8名

年初めの安全祈願をおこない、樹林地内で全員で方形柵調査と植生調査。10m四方の区域の再確認し、木に印をつけた。前回は51種で今回34種と季節が分かる。

通路整備等の作業後、懇親会。風もなく鳥の鳴き声を堪能し、

樹林地の樹種の多さと野鳥観察が特徴と話あった。NTT樹林地の高い枝にハイタカを発見。初めて双眼鏡で姿を確認し、後で写真で同定した。(安部)



安全祈願

カニ山の会

11月12日(土) 晴れ 参加者9名

高木の上の方にある枝下しと常緑樹の枝切など。女性二人は東端小道のササ刈り。広場付近の高木が3本ほど枯れているのを発見。緑と公園課に連絡した。

12月10日(土) 晴れ 参加者10名

落ち葉でいっぱい東樹林での落ち葉かき。斜面中段のあたりに伐採木を置いて下側だけ粗朶垣を作り、落ち葉をかき集める。できた堆肥はどうするか。ともかく落ち葉でいっぱいのままでは下草も生えにくい。シュンランやヤブコウジのために、せつせと落ち葉溜めへ。

先月伐採された枯れた高木(コナラ?)は、玉切りしてその場に置いてもらうようお願いしておいた。これは新割りイベントに使えるよう、やつこらさとドンダリの森へと運ぶ。



粗朶垣の落ち葉溜め

1月14日(土) 晴れ 参加者13名

東樹林の大木の下で今年の山仕事の安全祈願のあと、女性陣は火おこしと持ち寄り鍋の支度。薪割りの試行や竹コップ作りをしながらのアウトドアランチは最高。今年も楽しく作業ができますように。

(鍛冶)

若葉の森3・1会

11月6日(日) 晴れ参加者14名

作業前に、緑と公園課から第1緑地の借地部分返却の説明を受ける。隣接地の宅地造成のためだが、景観等影響大。

作業は、第1緑地で、来月作業予定の土留め用竹6本伐採。スズメバチ危険区域を示すロープ張り掲示。



竹伐採法揃え成果

12月4日(日) 晴れ参加者6名

前半の作業は、第1緑地で、先月製作の竹材で中央域斜面通路4か所土留め設置。南側通路の落葉かき。

後半は、第2緑地の東通路3か所滑り止め横木補修。生物に詳しいメンバーと野鳥の観察。5種類の小鳥(ウグイス、モズ、ヒヨドリ、ルリビタキ、ジョウビタキ)の鳴き声を確認。残念ながら写真は撮れず。また、入間町2丁目緑地に棲む41種類の蝶を観察し写真73頁と説明9頁にまとめた報告書が紹介された。

◇1月はお休み。次は2月5日。

(NOK)



竹土留め杭打ち



オンパッタ



竹杭土留め

凸凹森の会

11月23日(水・祝) 曇り 参加者7名

他地域の緑地の保全活動を参考にしようとして以前から希望していましたが、この日東部地域への遠足(見学会)を行いました。

仙川駅から「もりのちず」を片手に、若葉の森や入間樹林、実篤公園などを散策し地形や植生の特徴、垣根・柵・土留めなどの工夫の仕方を観察。また近隣の畑や民家の方々と交流を楽しむことが出来ました。



様々な工夫を観察

11月27日(日) 晴れ 参加者42名

11月の定例活動を一年の締めくくりとして「秋のイベント」を行っています。今年も大勢の親子が集まってくれて、また新しいメンバーが加わりました。子どもたちはリース、大人はカゴ作りに挑戦。クズやフジのつるを見つけて集めるところから作業が始まります。

今回は初めて、スタジイの実を集めて炒って食べるというのをやってみました。一昨年コマ打ちしたほだ木からシイタケが生えて来ました。(石原)



ほだ木からシイタケが



カゴ作りにも挑戦

チョウ好きの観察記

小春日和

昨年12月23日に、蝶はいるかな？と緑地に出かけました。当日は前日の風雨も収まり、よく晴れて気温は20度近くまで上がる予報です。初冬の樹林は静まりかえり、梢からシジュウカラ、エナガ、メジロやコゲラの鳴き声が降ってきます。カサコソとキジバトやシロハラが落ち葉をあさっています。樹林には蝶の姿はありません。お昼近くになりました。もう蝶

その⑤



ウラギンシジミ



ムラサキシジミ

が出ていいな！とお目の周りを飛んだり枝の中に入当てる陽当たりのよい木をチェックすると、梢の周りを飛び回るウラギンシジミの雄1頭とムラサキシジミの雄1頭を見つけた。ウラギンシジミは、私の殺気を感じたのか樹林の中に隠れてしまいましたが、秋から何度か観られた橙色の大きな雄です。ムラサキシジミは、草原に目を転じると、キタキチョウが季節外れのホトケノザの蜜を吸っているようです。蝶の重みで花がこ

はシラカシやトウネズミモチの周りを飛んだり枝の中に入り込んだりしています。時々葉先に止まって暖まります。ハツとする濃い空色で初夏のそれよりずっと鮮やかで、私がこれまで見た中でベストの色でした。雌タイプも止まります。こちらは翅の一部が欠けています。それでも元気に飛び回っていました。

小春日和になったこの日は、ウラギンシジミが1頭、ムラサキシジミが4頭、キタキチョウも4頭でした。この夏はカラスアゲハが飛来したし実りの多い年となりました。来年も宜しく、と緑地をあとにしました。

衛藤 譲二



キタキチョウ

ばれ落ちました。これらの3種は成虫で冬越しすると言われています。

人間・樹林の会

原則毎月第3日曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接人間地域センターへ。

- 2/18(土) 9:30～11:00
- 2/19(日) 9:30～12:30
- 3/19(日) 9:30～12:30
- ※2月18日土曜は野鳥観察会を行います。

カニ山の会

毎月第2土曜に自然広場で保全活動を行っています。参加希望者は野草園横に直接集合。

- 2/11(土) 10:00～15:00
- 3/11(土) 10:00～12:00
- ※2月は「根回し・薪割り体験」やります。詳しくはフェイスブック・カニ山の会参照。

若葉緑地の会

原則毎月第2日曜に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

- 2/12(日) 9:30～12:00
- 3/12(日) 9:30～12:00

若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜に若葉町3丁目第1・2緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

- 2/5(日) 9:30～12:00
- 3/5(日) 9:30～12:00

凸凹森の会

原則毎月第4日曜に上石原布田産線緑地で保全活動をしています。

- 2/26(日) 10:00～12:00
- 3/26(日) 10:00～12:00

先の5団体の保全活動問合せは緑と公園課 042-481-7083

第8回環境活動交流会

～知って守ろう！調布の自然～

映像で見る「調布の自然 昔と今」

2017年3月5日(日)

午後1時(開場12時30分)～午後4時

文化会館たづくり8F 映像シアター

上映作品「私たちの神代町」「調布の自然」

「市民が守る調布の自然」

入場無料 当日直接会場へ



ヒヨドリは技巧派？

昨夏、庭のヤマボウシにヒヨドリが巣を作りヒナが三羽巣立っていました。下から見ても2階のベランダから見ても繁った葉に隠れて良くは見えない絶妙な位置に掛けてあるため巣の姿をしつかりと確認できたのは、冬になり葉が落ちてから。

先日、ヤマボウシの剪定をする際に撤去してしまおうかと思いましたが、もしかしたら次回も使ってくれるかも...と思い残した物をじっくり観察してみました。



これが、なかなか繊細に出来ているのです。枯れ枝の細いのや荷造り用のビニールの切れ端とおぼしきものを組み合わせてステキなカゴ状になっているのです。私にだって出来ない！メジロやシジュウカラを追っ払う傍若無人で無法者のイメージのヒヨドリ。こんな手仕事(?)が出来るとは！ちょっと見直しました。(中原彰子)

人間樹林 秋～冬の実



ナンテン



センリョウ



ヤブラン



ギンラン



ヤブミョウガ



フユサンゴ



ハダカホオズキ



ムラサキシキブ

環境市民活動スケジュール

市民発 ちょうふの自然だより

◆「ちょうふの自然だより」はカンパとボランティアで支えられています。2009.3.15に設立された市民団体「ちょうふ環境市民会議」が自主発行しています。調布市内の身近な自然情報や市民の保全活動の記録、環境イベント案内、コラムなどを掲載、無料で配布しています。

発行：ちょうふ環境市民会議 連絡先：info@chofu-kankyo-shimin.org

“自然だより”の置き場所を募集中です。

◆地域福祉センター、たづくり11Fみんなの広場、調布市環境部(市役所8F)、あくろす2・3F、郷土博物館、実篤記念館、多摩川自然情報館のほか、神代植物公園植物多様性センター、てらのサウルス(国領)、ニワコヤ(仙川)、みさと屋(布田)など。置き場所&応援カンパ募集中です！

◆会員募集！年会費1000円/サポーター会員500円 郵便振替(00150-9-765663 ちょうふ環境市民会議)

※携帯メールでのお問合せには当方の返信が届かない場合があります。

◆この自然だよりは ちょうふ環境市民会議ホームページにも掲載、バックナンバーもご覧になれます。◆